熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

年　　報

第3号

2012

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

序　　文

文学部附属永青文庫研究センターは、平成24年４月から、いよいよ４年目に突入いたします。本研究センターの活動の一環として、毎年永青文庫叢書を発刊してまいりました。第１巻は平成22年５月『細川家文書中世編』、第２巻は平成23年３月『絵図・地図・指図編Ⅰ』を、そして今回、永青文庫叢書第３巻として『細川家文書近世初期編』を３月に発刊することができました。

このような成果を毎年着実に上げることができますのも、スタッフの頑張りだけではなく、数多くの人々や企業の支援のおかげさまです。平成23年度には、肥後銀行をはじめとして、多くの熊本県民からなる「熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部」、また個人、その他、熊本全日空ホテルニュースカイ、福岡に本社を置く株式会社南陽等からまことに心温まるご支援を頂きました。

出版以外の活動としては、これまでどおり、永青文庫資史料の目録作成とデータベース化、重要資史料の写真撮影、『要覧』の増刷、熊本大学附属図書館との共同で、「永青文庫資料にみる肥後の街道とその景観」、放送大学学習センターにおいて北野隆本研究センター特任教授による講演会「永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力―街道とその建築―」を行いました。

過去に遡りますと、平成22年６月にフランスのボルドー大学において、稲葉継陽副センター長が永青文庫に関する講演を行いました。また、中国の安徽大学と平成22年９月に文学部と学術交流協定を締結した縁で、平成23年９月に、中国から研究者を招き、本研究センター主催で伊藤正彦文学部准教授が中心となり、国際シンポジウム、「安徽省博物館蔵『万歴27都５図黄冊底籍』の世界」を開催いたしました。

このように、文学部附属永青文庫研究センターは発足以来、地道な、しかし極めて重要な研究及びその研究成果を公にするための社会貢献という、２つの大きな使命を堅実に果たしております。これからも本研究センターに所属するスタッフは自信と誇りを持って自分たちに課せられた使命を果たすべく、研鑽を積んでいくことでしょう。なにとぞ、このような文学部附属永青文庫研究センターの活動を、今後ともよろしくご支援のほどお願い申しあげます。

平成24年３月１日

熊本大学文学部長
大　熊　　薫

目　　次

序文……1

1．センターの年間活動……4

2．年間活動報告……9
　古文書・古記録研究部門……9
　絵図地図研究部門……10
　有職故実研究部門……11
　文学・文芸研究部門……12

3．講演会の記録……14
　永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力（要旨）……14
　村役人たちの明治維新（要旨）……16

4．研究ノート
　細川幽斎筆『源氏物語』書入れ覚書……18
　永青文庫資料における近世後期藩政史料について……22

5．研究員の年間活動……27

1. センターの年間活動

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成23年４月４日	スタッフミーティング	センタースタッフ
４月13日	東京大学史料編纂所来訪	山口（東大）・木村（東大）・稲葉
４月18日	スタッフミーティング	センタースタッフ
４月25日	県教委文化課書庫見学	吉丸（永青文庫理事） 他７名・川口
４月26日	故鈴木喬元熊本市文化課長夫人澄子氏より100万円、熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部より110万５千円寄附を頂く	鈴木（元熊本市文化課長夫人） 吉丸（永青文庫理事） 大熊・甲元・稲葉
４月27日	「尚書正義版木」撮影	高濱・松崎・藤本・今村
５月９日	スタッフミーティング	センタースタッフ
５月11日	「尚書正義版木」撮影	高濱・松崎・藤本・今村
５月12日 ～13日	絵図地図撮影（大型資料）	江上（カマノ写真館）・藤本・今村
５月18日	永青文庫基金運営委員会 ①昨年度の成果報告と本年度予算案の審議承認	甲元
５月21日	熊本ルネッサンス総会出席	吉丸（永青文庫理事） 蒲島（熊本県知事） 甲元・川口
５月23日	スタッフミーティング	センタースタッフ
５月25日	永青文庫研究センター運営委員会 ①平成23年度事業計画について ②平成23年度の予算について ③その他	大熊（文学部長） 岩岡（社文科研長） 丹下 甲元・稲葉・森・吉村
６月６日 ～10日	歴史冊子集中調査 東大史料編纂所　木村氏参加	松本（元熊大教授） 稲葉・川口・今村・後藤 一般：６名・学生：９名
６月13日	スタッフミーティング	センタースタッフ

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
６月15日	「尚書正義」（熊本県立図書館蔵）の出張撮影	高濱・藤本
６月16日 ～17日	絵図地図撮影（大型資料）	江上（カマノ写真館）・藤本・今村
６月27日	スタッフミーティング	センタースタッフ
７月11日	スタッフミーティング	センタースタッフ
７月25日	スタッフミーティング	センタースタッフ
８月１日 ～５日	文学文芸部門集中調査	森・徳岡・山田
８月４日	宮内庁書陵部貴重書庫訪問	
８月22日	スタッフミーティング	センタースタッフ
９月12日	永青文庫研究センター運営委員会 ①永青文庫研究センター将来構想ＷＧの設置について ②その他	大熊（文学部長） 岩岡（社文科研長） 丹下 甲元・稲葉・森・吉村
９月18日	国際シンポジウム「安徽省博物館蔵『万暦27都５図黄冊低籍』の世界―宋―明期の江南における小経営発展と里甲制体制下の階層構成―」開催 司会：稲葉継陽 講演：『万暦27都5図黄冊底籍』発見の経緯と意義 欒成顕（中国社会科学院歴史研究所研究員） 報告①：南宋時代の小農民経営再考 長井千秋（愛知大学文学部准教授） 報告②：明代里甲制体制下の階層構成 ―『万暦27都5図黄冊底籍』の分析― 伊藤正彦（熊本大学文学部准教授） 報告③：徽州における私家文書の伝来―休寧率東『程氏置産簿』をめぐって― 大田由紀夫（鹿児島大学法文学部准教授） 総括討論 コメンテーター： 足立啓二（熊本大学文学部教授） 中島楽章（九州大学人文科学研究院准教授） 宮澤知之（佛教大学歴史学部教授）	熊本大学文学部２階「共用会議室」

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
	森　正夫（名古屋大学名誉教授） 渡辺信一郎（京都府立大学文学部教授） 卞　　利（安徽大学徽学研究中心主任・教授） 通訳：楊　纓（日本工業大学非常勤講師）	
９月20日	打合せ	小堀（放送文化振興財団） 吉丸（永青文庫理事） 甲元
９月26日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月７日	京都国立博物館「永青文庫の至宝展」内覧会出席	今村
10月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月20日	「ぐっと！もっと！くまもと」撮影	熊本県・稲葉他
10月26日	永青文庫研究センター将来構想 WG	
10月29日	貴重資料展・第6回永青文庫セミナー開催 「永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力―街道とその建築―」講師：北野　隆	図書館 聴講者：90名 来場者：214名
10月30日	「加藤・細川400年の歴史と文化」シンポジウム基調講演「武士の家計簿」 講師：磯田道史（茨城大学人文学部准教授） パネルディスディスカッション 「加藤・細川の文化の継承と活用」 パネリスト：磯田道史 （茨城大学人文学部准教授） 稲葉継陽（文学部教授） 甲斐隆博（肥後銀行頭取） 吉丸良治（永青文庫理事） コーディネーター： 松下純一郎（熊本日日新聞社編集局長）	熊本県庁地下大会議室
10月31日	スタッフミーティング 東京大学史料編纂所来訪 貴重資料展案内・忠利文書及び目録の共同検討	センタースタッフ 山口（東大史料編纂所） 木村（東大史料編纂所） 小宮（東大史料編纂所） 稲葉
11月８日 ～９日	絵図地図撮影（大型資料）	江上（カマノ写真館）・ 藤本・今村

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
11月11日	文化庁調査官来訪 永青文庫資料の段階的な国指定へ向けて協議	文化庁美術学芸課 丸山（熊本県文化課） 甲元・稲葉
11月14日 ～18日	歴史冊子集中調査 ３日間東大史料編纂所　山口氏・木村氏参加	松本（元熊大教授） 稲葉・川口・今村・後藤 一般：７名 学生：10名
11月15日	研究打合せ	吉丸（永青文庫）・甲元
11月21日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月24日	第一回細川幽斎冊子作成委員会	舞鶴市教育委員会・稲葉
11月28日 ～12月２日	文学文芸部門集中調査	森・徳岡・山田
12月12日 ～13日	スタッフミーティング 研究打合せ 絵図地図撮影（大型資料）	センタースタッフ 吉丸（永青文庫）・甲元 江上（カマノ写真館）・ 藤本・今村
12月29日	九州国立博物館『永青文庫の至宝展』 内覧会出席及び研究打合せ	吉丸（永青文庫理事） 九州国立博物館学芸員 稲葉・後藤・藤本
平成24年１月16日	スタッフミーティング	センタースタッフ
１月17日 ～18日	絵図地図撮影（大型資料）	江上（カマノ写真館）・ 藤本・今村
１月23日	研究打合せ	吉丸（永青文庫）・甲元
１月30日	スタッフミーティング	センタースタッフ
１月31日	熊本市歴史文書資料室との研究打合せ	甲元・北野・藤本
２月７日	センター運営委員会 ①平成23年度活動報告について ②平成24年度活動計画について ③平成24年度センタースタッフについて 出版について打合せ	大熊（文学部長） 岩岡（社文科研長） 丹下 甲元・稲葉・森・吉村 吉丸（永青文庫）・稲葉
２月13日	スタッフミーティング	センタースタッフ
２月14日	絵図地図撮影（大型資料）	江上（カマノ写真館）・ 藤本・今村

日　付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
2月20日	出版について打合せ	吉丸（永青文庫理事）・稲葉・後藤
2月21日	打合せ	浪床（熊日）・稲葉
2月27日～28日	『永青文庫叢書　細川家文書近世初期編』出版挨拶・研究打合せ 公益財団法人永青文庫に『永青文庫叢書細川家文書近世初期編』を19冊寄贈し、平成21～23年度にかけてセンターにて撮影した史資料写真データを提出した（絵図関係写真は昨年度提出済）。	公益財団法人永青文庫 文化庁 甲元・稲葉・今村
～3月2日	文学文芸部門集中調査	森・徳岡・山田
3月1日	『永青文庫叢書　細川家文書近世初期編』刊行 出版挨拶・研究打合せ	小堀（放送文化振興財団） 甲元・藤本
3月5日～9日	スタッフミーティング 歴史冊子集中調査 ５日間東大史料編纂所　山口氏・木村氏参加	センタースタッフ 稲葉・川口・後藤・今村 一般：７名 学生：７名
3月12日	細川幽斎冊子の発行計画について打合せ	京都府舞鶴市教育委員会 稲葉
3月26日	スタッフミーティング	センタースタッフ

2．年間活動報告

古文書・古記録研究部門

川口恭子・稲葉継陽・吉村豊雄・今村直樹・長井勲・内山幹生・松崎範子

1．調査カードの記入

2011年度は、附属図書館貴重書庫に収蔵されている膨大な藩政関係史料群等について、文化庁調査官の指導を踏まえて確定した調査カードに、データを記入する作業を実施した。これには、30cm以上の厚さになる藩政史料綴りの一冊一冊について、丁数を調査する作業を伴うため、相当の手間と時間を要した。

技術補佐員による日常の活動と、10日間にわたって実施した集中調査によって約2,500冊の調書が作成された。

2009年度から2011年度まで３年間の調査において、当該分野の担当で30,000点を超える史料調査カードが作成された。これは、寄託資料中の古文書・古記録史料の約90％にあたる。

2．カード情報の電子データ化

2010年度までにカードを作成した杉部屋の藩主一族書状群、細川忠利関係史料群等について、調査カードに記入した情報をエクセルファイルに入力・データ化する作業を実施した。作業は2011年４月から2012年３月まで、約2,000点を完了した。

なお、近世初期の一紙文書群について、調査カードの記載内容を見直して統一をはかる作業を実施した。

3．中世文書群の目録作成

永青文庫所蔵資料群のうち、中世文書群について国指定を検討するとの意向が文化庁調査官から示されたことにより、調査カード等のデータによって約350通分の詳細目録を作成し、文化庁に送付した。

なお、文化庁による現物の調査は2012年度中に実施される予定。

4．目録作成作業について今後の見通し

寄託資料群のうち最大の分量を占める古文書・古記録史料群について、2012年度の早期に調査カード作成完了が見込める段階となった。

2012年度からは作成した調査カードを順次見直しながら入力・データ化作業を進展させて2013年度までの総目録完成をめざす。

5．重要資料の撮影

2009年度から本年度までの作業によって、貴重書庫杉部屋に収納されている歴史資料等約10,000点の撮影を完了した。

なお、下記６の出版事業と関連して、元和・寛永期の藩主関係文書写集、奉行所における合議記録綴などを撮影し、今後の詳細検討に備えた。

6．『永青文庫叢書　細川家文書　近世初期編』の出版

本センター出版の三冊目の叢書として、細川忠利発給文書、同決済文書、及び家臣団起請文

等261通の写真・翻刻文・解説・目録等を集成した『永青文庫叢書　細川家文書　近世初期編』を2012年３月１日の奥付で、吉川弘文館から刊行した。

絵図地図研究部門

北野隆・藤本豊治

１．進捗状況

(1) 調査の進捗状況とこれまでの活動概要

絵図・地図研究部門はこれまで、熊本大学附属図書館貴重書庫に収蔵されている絵図・地図・指図を中心に約1,000点について、文化庁調査官の指導を踏まえて確定した調査カードにデータを記入し、その情報をエクセル・ファイルに入力して電子データ化する作業などを実施してきた。未調査の資料は、残り50～100点程度と推定される。

調査した約1,000点の絵図・地図・指図は、以下に示すようにいろいろな種類からなっている。

①細川家が肥後入国以前の丹後国や豊前国時代の領地絵図
②関ケ原の戦や大坂夏の陣を描いた合戦絵図
③肥後国や各手永を描いた国絵図
④江戸城を中心に各大名屋敷や町屋、熊本城を中心に各家臣屋敷を描いた城下絵図
⑤江戸城や肥後藩の江戸屋敷、熊本城や町屋などの建築図（指図）
⑥将軍や藩主の菩提寺、細川家が神社修復や建立に関わった社寺建築図や祭礼絵巻
⑦参勤交代や幕府巡見使の視察順路を描いた街道図や景観絵巻
⑧藩主や巡見使が宿泊などに使用した御茶屋図や御客屋の建築図
⑨江戸城や国許屋敷での殿中祇候の席次を記した儀式典礼図
⑩その他河川改修などを描いた普請絵図など

上記資料の中から「細川家の領国の変遷とその景観と建築」をテーマに、特に重要な168点を収録した『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅰ』(2011年３月１日発行）を既に出版しており、その成果の一部は下記の「第28回熊本大学附属図書館貴重資料展　永青文庫にみる肥後の街道とその景観」及び「公開講演会」兼「第６回永青文庫セミナー」で一般に公開した。

(2) 今後の作業と活動

①調査カード作成（未調査資料：残り　50～100程度、見直し、原本校正など）
②電子データ化（目録作成、写真データ整理など）
③『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅱ』の出版（執筆、編集など）

２．「第28回熊本大学附属図書館貴重資料展　永青文庫にみる肥後の街道とその景観」の共催

上記資料展（平成23年10月29日～10月31日）と付随する「公開講演会」兼「第６回永青文庫セミナー」（平成23年10月29日）を熊本大学附属図書館と共催した。

(1) 企画、展示資料の選定、解説目録の執筆、ポスターとチラシの作成、広報協力など
（北野・藤本）

(2)「公開講演会」兼「第6回永青文庫セミナー」の講師（北野）

３．『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅱ』の出版準備

(1) 企画、選定、目録作成

本センターから出版する４冊目の叢書となり、2013年３月刊行予定である上記の出版準備を進めた。『絵図・地図・指図編』として2巻目となる本巻は、「徳川幕府の成立と藩領国支配について」をテーマに『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図編Ⅰ』で掲載できなかった重要な資料、①合戦図・②肥後国絵図・③鎖国・④参勤交代関係図など約200点を選定し撮影を行った。

①合戦図：「公方様御屋形作」・「駿河田中御殿之指図」・「きさいの城　謙信公責申候城」・「小田原御陣小屋絵図」・「関ケ原図」・「大坂夏陣図」など
②国絵図：「肥後国絵図（慶長絵図）」・「肥後国中之絵図（正保絵図）」・「肥後国　（元禄絵図）」・「阿蘇谷絵図」・「五家庄絵図」・「熊本県管内図」など
③鎖国：「有馬城攻図」・「長崎」・「魯西亜船入津ニ付佐嘉・筑前大村御備之図」・「朝鮮国對州従有明山遠見之図」・「浦賀之図」・「魯西亜人應接図」など
④参勤交代：「東海道分間図」・「木曾道行程図」・「海陸行程図」・「自浪華渡澱河到伏陽行程図」・「波奈之丸」・「御入国御行列之図」・「江戸切絵図」など

(2) 写真撮影

掲載予定資料の写真撮影は、大型のものは４×５ポジフィルムで、小型のものは1,200万画素程度のデジタルカメラで行った。内訳は以下の通りである。

①４×５ポジフィルム撮影：73点（11日間［６回］：カマノ商会　江上、今村、藤本）
②デジタル撮影　　：127点（８日間［６回］：北野、藤本）

4.「尚書正義版木」の写真撮影と整理

各研究部門と共同で、「尚書正義版木」（版木：390枚、表題：１点）の写真撮影と整理を、以下のように行った。その際、整理用の仮番号付した紙札を写真に写し込み、撮影後にこの紙札を版木に紙縒りで結びつけて写真と照合出来るようにした。

(1)「尚書正義版木」の写真撮影（２日間［２回］：高濱、松崎、今村、藤本）
(2)「尚書正義」（熊本県立図書館蔵）の出張写真撮影（１日間［１回］：高濱、藤本）
(3)「尚書正義版木」と「尚書正義」の照合、整理（甲元、藤本）

有職故実研究部門

高濱州賀子

本年度も前年度に引き続き、主に杉部屋に収蔵されている資料のうち、有職故実・芸能・美術工芸関係資料を調査、分類していく作業を行った。

杉部屋収蔵の資料は特に貴重なものが多く、歴代藩主の手元に置かれていた資料も含まれている。本部門で目録化したものは現在730件となった。

杉部屋以外の故実資料960件については今後デジタル撮影を行い精査する予定である。

今年度調査したもので比較的纏まった形で残っていたのが細川忠利にかかわる武芸資料であ

る。忠利は二代忠興の三男であったが、慶長５年12歳のとき徳川家の人質として江戸に赴き、関ガ原の役では秀忠の供として出陣、同９年秀忠の命で細川家の後嗣となる。同19年大坂冬の陣には秀忠に従い江戸より出陣、翌年夏の陣には小倉から出陣している。その後は肥後熊本藩主に移封、寛永15年島原の乱に出陣、大きな戦功を挙げたが同18年３月に56歳で没した。

こうして関ヶ原、大坂の陣、天草島原の陣と大きな戦さも経験し、自身でも武芸や兵法への関心が非常に高かった。その鍛錬の記録としては、早いものでは慶長８年、馬術において中山（加治）勘解由左衛門照守から八條流の馬術免許を与えられている。武術では、鑓術の疋田新陰流相伝を疋田豊五郎から受け、次いで寛永６年から松山主水の中條流（戸田流）から派生した二階堂流平法の小太刀を習い、家臣にも学ばせている。また宝蔵院流十文字鎌の目録も受けた。さらに最多の資料が残るのが柳生宗矩との授受文書である。宗矩から柳生新陰流兵法を相伝するに当たって、忠利は宗矩に様々な疑問を尋ね、宗矩がそれに答えるなどの兵法問答が交わされ、熱心な武術家であったことが資料により裏付けられてきた。

さらに忠利以降、光尚・綱利など藩主の武芸習得の実態を辿れるなど、興味深い資料を整理、解明している。

文学・文芸研究部門

森正人・徳岡涼

文学関係の典籍類は、2004年度より、国文学研究資料館の文献調査として、年に２～３回の集中調査を中心に実施してきた。2011年度も継続してのものである。

調査に際しては、事前に、未調査を示す付箋（和紙に赤のポスターカラーで着色したもの）を挟み、対象となる典籍をリストアップし台帳を作成する。調査が終了し次第、緑のポスターカラーで着色した付箋に取り替える。

調査は、付属図書館２階の教員研究室で行う。フォーマットは、国文学研究資料館の細目カードを使用する。「写本・刊本の別」「外題」「内題」「柱」「整理番号」「刊写年次」「残存状況」「保存状態」「箱・帙・袋などの有無・別筆か否か」「用字」「刊記・奥書・識語・極札・箱書・広告など」の項目である。

本年度は以下の通り３回にわたって集中調査を実施した。なお、文学・文芸研究部門の残りの調査点数は、200～300点ほどとみられる。

＊第22回　永青文庫和漢書集中調査　2011年８月１日～５日
　調査点数：151点
　参加者：森・徳岡・山田・堀畑正臣（熊本大学・教）・屋敷信晴（熊本大学・文）
　　中野貴文（熊本大学・教）鈴木元（熊本県立大学・文）・米谷隆史（同）・
　　川平敏文（九州大学・文）・小川剛生（慶応義塾大学・文）

＊第23回　永青文庫和漢書集中調査　2011年11月28日～12月２日
　調査点数：100点
　参加者：森・徳岡・山田・堀畑正臣（熊本大学・教）・中野貴文（熊本大学・教）
　　鈴木元（熊本県立大学・文）・米谷隆史（同）・川平敏文（九州大学・文）

＊第24回　永青文庫和漢書集中調査　2012年２月27日から３月２日
　調査点数：149点
　参加者：森・徳岡・山田・堀畑正臣（熊本大学・教）・中野貴文（熊本大学・教）
　　屋敷信晴（熊本大学・文）鈴木元（熊本県立大学・文）・米谷隆史（同）
　　川平敏文（九州大学・文）小川剛生（慶應義塾大学・文）

その他以下の活動も行った。

＊『前田尊経閣文庫目録』『内閣文庫目録』『静嘉堂文庫目録』『大東急記念文庫目録』『伊達文庫目録』などを参照しながら、カード分類と、データベース化。徳岡・山田

＊地下2階未登録資料の、事前調査。古文書・古記録研究部門との境界を決定し、書名を書き出し概要把握。徳岡

＊現在、所在不明と判断される資料・史料の特定・リスト作成。徳岡

3．講演会の記録

1）第28回熊本大学附属図書館貴重資料展　公開講演会・第６回永青文庫セミナー

2011年10月29日

永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力（要旨）

北野　隆

第６回永青文庫セミナーが、平成23年10月29日（土）に放送大学熊本学習センターで行なわれた。昨年３月に出版された『永青文庫叢書　細川家文書　絵図・地図・指図Ⅰ』の中から「肥後の街道とその景観」というテーマで講演した。但し、今まで公開された「熊本城図」・「細川家の江戸屋敷」・「肥後藩の国許屋敷」など城下町や大名関係の武家屋敷は除いた。

今回は熊本城下町から離れた五ケ町や在町・各村を紹介した。具体的には、肥後国全域を描いた国絵図と巡見使が辿った道筋と景観を描いた街道図を中心に、沿道の町と村にあった御茶屋、寺社、御客屋（町屋）、民家（農家）などを紹介した。天保９年（1838）、幕府の西国巡見使・曽我又左衛門・大久保勘三郎・近藤勘七郎３名が筑後・岩本口から府本村（荒尾）―高瀬町―味取新町（植木）―熊本―川尻町―宇土町―小川町―八代町―日奈久町―佐敷町―濱町（水俣）から薩摩国へ通った。これらの内、五ケ町であった高瀬町や川尻町の町構成は御茶屋を中心に御客屋、町屋が並んでいた。五ケ町の御茶屋には町奉行所と藩主の宿泊の御殿からなっていた。西国巡見使・曽我又左衛門・大久保勘三郎・近藤勘七郎三名は御茶屋に宿泊することはなく、御客屋に宿泊していた。これは御茶屋に町奉行所が設けられていたからと思われる。また、他国の藩主（薩摩藩主）が城下町を通過する時には城下入口に藩主専有（本陣）の宿泊所を設けていた。

農家については、「御料御巡見衆五ケ庄へ御通行道筋略図」が参考になる。道筋は北種山村―柿迫村―岩奥村―板木村を通って天領である五家庄の椎原村にいった。これらの村には御茶屋はなく、庄屋クラスの家が巡見使の宿泊所になった。また、ある村では一軒に二人の巡見使が宿泊した。「座敷」と「次の間」の二部屋にそれぞれ宿泊したが「次の間」には、「床の間」がなかった。「次の間」に玄関と「畳床」が新しく造られた。巡見使の宿泊には、玄関・床の間が必要であった。

また、藩主も領内を視察していた。藩主の領内宿泊は各地に設けられていた御茶屋内の御殿である。高瀬の御茶屋、川尻の御茶屋をはじめ小川御茶屋、日奈久御茶屋など御茶屋が中心であった。更に、藩主は史跡も見学していた。現在、国指定重要文化財の隈部館跡や合志古城跡である。藩主の見学に先立って絵図が描かれた。これらの絵図は、今後の史跡の整備に役立つことになろう。

永青文庫には、このような五ケ町や在町・各村の景観や指図（建築平面図）をはじめ、城下町や大名関係の武家屋敷の景観や指図（建築平面図）も存在する。江戸時代のすべての階級の景観や指図（建築平面図）を研究する上で貴重な史料である。

2）熊本市塚原歴史民俗資料館講座記念講演

2012年３月18日

村役人たちの明治維新（要旨）

今村直樹

Ⅰ

明治維新によって、それまでの領主的土地所有や近世身分制は一挙に解体され、19世紀後半以降の日本社会は急速な近代化を経験していく。

世界史的にみても注目される、こうした社会の大転換を内在的に理解しようとする際、地域社会で近代化事業の担い手となった人的資源の存在は重要である。いわゆる近世の村役人については、地主・高利貸しを兼ねて、小前たちと対立する姿が描かれてきた。しかし、熊本藩の惣庄屋・庄屋たちの姿をみていくと、従来のイメージとは異なる村役人像が浮かび上がってくる。熊本藩は、明治政府の実務官僚クラスの人材を多く輩出したことでもしられている。日本社会の巨大な転換期に、惣庄屋・庄屋といった村役人たちは、一体どのような歴史的役割を果たし、またどのように「維新」を生き抜いたのだろうか。

Ⅱ

近世後期熊本藩における村役人の存在形態をみると、すぐに彼らが、必ずしも「村の顔役」的な地主・豪農ではないことに気づく。惣庄屋・庄屋はみずからの居村を離れ、一定期間で任地を転勤していく官僚的存在であった。遠方の任地に赴いている最中、管理を委ねていた人物に自身の土地を横領されてしまった惣庄屋もいた。事実上、居村での地主化の道を絶たれていた彼らが、村役人として昇進していくためには、藩政府から自身の職務遂行状況についての業績評価を受ける必要があった。永青文庫資料には、そうした業績評価に関する、近世後期に作成された詳細なマニュアルが存在している。熊本藩の地域行政拠点である手永会所には、惣庄屋をはじめとして数十人の実務役人が勤務していたが、彼らによる会所内での出世競争もまた熾烈であった。手永の幹部職である手代ポストをめぐって、嘉永年間の下益城郡河江手永の会所では、ライバルの一派を讒訴で陥れようとする事件までおこっている。熊本藩の村役人たちは、まさしく「地方官僚」であった。

Ⅲ

政局が大きく揺れ動く幕末期以降、村役人たちによる地域行政もまた困難をきわめていくが、彼らの多くが最も大きな岐路に立たされたのは明治３年（1870）であった。この年、熊本藩では大規模な藩政改革が断行され、地域行政機構である手永が解体される。これとかかわって、従来の村役人たちの大規模なリストラがおこなわれた。引き続いて新設の区町村吏（区戸長・用掛など）に任命されたのは、ほんの一部であった。しかし、新設された区町村吏のポストの大半は、近世身分制の解体を経たにもかかわらず、旧村役人経験者で占められていた。彼らは、近世期から培ってきた高い事務処理能力を基礎としながら、明治新政府が法令として打ち出す

近代化事業（学校建設・地租改正など）を、地域社会で実行に移していく。旧村役人たちは、地域社会での「維新」の担い手となったのである。

Ⅳ

しかしながら、明治初年という時代は、近世から引き続き地域行政を担当した旧村役人らにとって、やはり受難の時代であった。廃藩置県を経た明治８年（1875）にいたるまで、旧熊本藩領では行政区画の再編が頻繁におこなわれるが、それにともなって区町村吏が担当すべき管轄区域は拡大する一方、彼らの給与待遇は悪化していった。また、近代化事業に要する費用は基本的に地域負担であったが、こうした費用を徴収する立場にあった彼らには、地域住民から不正疑惑がかけられることもあった。そのため、旧村役人のなかには地域行政から離れ、政府の官僚・議員・自由民権論者・実業家などに転身する人物もいた。

明治10年（1877）、彼らに最大の苦難がふりかかる。西南戦争と農民一揆の発生である。この戦乱と混迷の渦中で、区町村吏は管理する公金を薩摩軍から狙われたり、また一揆勢から戸長征伐や打ちこわしにあったりした。とくに阿蘇郡の区長は、一揆勢の追及から逃れるため、戦時下の熊本から福岡、さらに大分県へと危険な逃避行を余儀なくされている。維新で生成された社会の矛盾を、明治初年に最も多く引き受けたのは、旧村役人たちであり区町村吏であった。

Ⅴ

西南戦争と農民一揆の後、区町村吏たちは荒廃した地域社会の復興に取り組む。多忙をきわめ、休日を返上して職務に従事する彼らが、束の間の休息を求めて県に提出した「温泉休暇願」からは、歴史の転換期に生きた地域行政担当者のリアルな声が伝わってくる。

激動の明治初年をへて、明治20年代には明治地方自治体制が確立されるが、近代行政村の指導者の多くもまた、旧村役人経験者であった。彼らは、旧熊本藩時代の手永制の経験を生かしながら、新たな「自治」の内実を形成していく。

政治・社会のあり方が大きく転換した幕末から明治前期、地域行政を一貫して支え続けた旧村役人こそ、実はかくれた明治維新の立役者であったのではなかろうか。

5．研究員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員会委員、佐敷城調査検討委員会委員、陣ノ内館調査検討委員会委員、宇土城調査検討委員会委員、甲佐町史編纂委員会委員、荒尾市史編纂委員会委員

論文

「永青文庫所蔵の近世初期文書群と藩政」熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書　細川家文書　近世初期編』吉川弘文館、pp. 325－347、2012年

出版

『武将幽斎と信長―細川家古文書から―』（熊本日日新聞社、熊本大学文学部附属永青文庫研究センター監修、2011年）の出版に際して専門的知識を供与

講演会

「『加藤・細川400年の歴史と文化』シンポジウム～地域の歴史・文化の再発見とその活用～」（熊本県・「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動本部主催）にパネリストとして参加

今村直樹

論文等

「地域的公共圏の歴史的展開―熊本藩領の手永を事例に―」荒武賢一朗編『近世史研究と現代社会　歴史研究から現代社会を考える』清文堂、pp. 81－115、2011年４月

「明治四年の藩議院と議員の活動」荒武賢一朗・渡辺尚志編『近世後期大名家の領政機構　信濃国松代藩地域の研究Ⅲ』岩田書院、pp. 239－286、2011年５月

「近世後期藩領国の行財政システムと地域社会の『成立』―熊本藩を事例に―」『歴史学研究』885号、pp. 76－85、2011年10月

「十九世紀熊本藩の惣庄屋制と地域社会―阿蘇郡北里手永を中心に」志村洋・吉田伸之編『近世の地域と中間権力』山川出版社、pp.45－81、2011年12月

「〈特集〉近世東アジアにおける地域社会と秩序　特集にあたって」『歴史の理論と教育』135・136合併号、pp. 1－2、2011年12月

「書評　松沢裕作著『明治地方自治体制の起源―近世社会の危機と制度変容』」『年報近現代史研究』４号、2012年３月刊行予定

講演会

「近世後期藩領国の行財政システムと地域社会の『成立』―熊本藩を事例に―」歴史学研

究会大会近世史部会、2011年５月22日、青山学院大学青山キャンパス

「明治十年一揆後の社会状況と地域秩序―熊本県阿蘇郡から」熊本史学会春季研究報告大会、2011年６月４日、くまもと県民交流館パレア

「村役人たちの明治維新」熊本市塚原歴史民俗資料館講座記念講演、2012年３月18日

川口恭子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、公益財団法人永青文庫評議員、財団法人松井文庫評議員

監修

『松井文庫所蔵古文書調査報告書』15、八代市立博物館未来の森ミュージアム、2011年

講演会

「永青文庫の古文書は語る」2011年11月25日、熊本県総合福祉センター研修室

講座

「古文書学講座」熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部主催、月２回、熊本市現代美術館、「古文書を読む（初級）」「古文書を楽しむ」NHK 文化センター熊本教室、いずれも月２回

受賞

平成23年度熊本市有功者賞受賞

北野　隆

各種委員会

熊本市文化財保護委員会、大分市文化財保護審議会、人吉城整備検討委員会、岡城整備検討委員会、宇土城整備検討委員会、勝尾城整備検討委員会、臼杵城整備検討委員会、南関城調査委員会、佐敷城策定委員会、熊本アートポリス推進賞選考委員

講演会

「永青文庫資料にみる肥後の景観の魅力―街道とその建築―」第28回熊本大学附属図書館貴重資料展公開講演会・第６回永青文庫セミナー、2011年10月29日、放送大学熊本学習センター講義室

「熊本県の文化財・建築」熊本県建築士会館、2011年10月１日

甲元眞之

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、文化庁「発掘調査の手引き」作成委員会委員、西南戦争遺跡調査検討委員会委員

著書等

共編『講座日本の考古学５、弥生時代上』青木書店、pp. 755、2011年

共編『講座日本の考古学５、弥生時代下』青木書店、pp. 513、2011年

「永青文庫研究センター活動報告」『文学部通信』第11号、p. ８、2012年

「跋文」熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書　細川家文書　近世初期編』吉川弘文館、pp. 349－350、2012年

高濱州賀子

各種委員会

熊本市文化財保護委員会委員、大分市美術館収集委員

非常勤講師

熊本大学教育学部非常勤講師、崇城大学芸術学部非常勤講師

論文等

「書評　熊日出版文化賞受賞作『横井小楠漢詩文全釈』」（熊本日日新聞、2012年２月19日付）

徳岡　涼

非常勤講師

熊本大学教養教育実施機構非常勤講師、熊本県立大学文学部非常勤講師、崇城大学薬学部・情報学部非常勤講師

論文

「浮舟辞世歌の行方」『實踐國文學』第80号記念号、実践国文学会、2011年

「玉鬘巻の筑紫下向と上洛の歌について」『国語国文学研究』第47号、熊本大学国語国文学会、2012年

講座

「平安朝文学～源氏物語を読む～」「古今和歌集を読む」熊本公徳会カルチャーセンター、いずれも月２回

森　正人

各種委員会

人間文化研究機構教育研究評議員、人間文化研究機構総合研究推進委員会委員

論文等

「芥川龍之介の小説世界と六道」『芥川龍之介與東亜国際学術研討會　手冊』（淡江大学日本語文学系）、pp. 33－40、2011年

「アジアの龍蛇伝承―シンポジウムの司会を務めて後に―」『説話・伝承学』第19号、pp. 65－71、2012年

講演会

「芥川龍之介と東亜―出典・諸作品の相互連関・読者―」芥川龍之介與東亜国際学術研討會パネルディスカッション、2011年５月７日、台湾・淡江大学

「中世日本における死と再生・転生」熊本大学公開講座「宗教と思想から見た「生」と「死」」、2011年５月28日、熊本大学

「継子物語は誰のために書かれたか」放送大学公開講演、2011年９月18日、放送大学熊本学習センター

吉村豊雄

講演会

「天草の歴史の魅力について」くまもと自然と文化の学芸員養成講座（熊本県文化企画課主催）、2011年７月８日、天草市立本渡歴史民俗博物館

「寛政大津波からの復興―熊本藩領有明海沿岸の村々を中心に―」21世紀文学部フォーラム「東日本大震災以後を考える　歴史から何を学ぶか」（熊本大学文学部研究推進・地域連携委員会主催）、2011年12月３日、熊本大学文学部

「近世後期熊本藩領の地域入用と地方行政経費」熊本史学会秋季研究報告大会、2011年12月、くまもと県民交流館パレア

永青文庫研究センター年報
第３号（平成23年度）
発行日：平成24年3月31日
発行者：熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター
〒860－8555
熊本市黒髪2－40－1
TEL　096－342－2304
印刷所：シモダ印刷株式会社